

キヤノン株式会社

2019 年第 3 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

Q1. レーザープリンターの消耗品は、上期に続き 3Q も減収となっており、また年間計画も引き下げている。その原因について教えてほしい。

A1. 欧州の景気減速が主因である。

Q2. HP が先日開催したアナリスト説明会において、プリンティング事業に関する戦略のアップデートがあったが、今後の関係に何か変化はあるのか。

A2. OEM パートナーとして、事業戦略の方向性については共有しており、今回の戦略については、アフターマーケットにおける純正品ブランドを守っていくという点でポジティブに捉えている。両社で協力し純正品の販売につなげていくという従来からの方針に変更はない。

Q3. 半導体露光装置や有機 EL 蒸着装置の市況について教えてほしい。

A3. 半導体露光装置は、足元のメモリ市況の需給バランスが取れてきたことで、価格に下げ止まりの傾向が見られている。今後もこの傾向が継続すれば、来期には 2018 年と同水準まで戻ってくると見ている。有機 EL 蒸着装置の現在の投資は、国産化を進める中国メーカーが中心である。こうした動きを受けて、他メーカーがどのように対応するかは不透明だが、最悪期は脱したとの認識でいる。

Q4. 構造改革について、今期の発生費用と効果金額について教えてほしい。また、販売会社を中心に構造改革を進めているとのことだが、生産部門では必要ないのか。

A4. 構造改革は、この 10 年の間に、我々が手掛ける製品の市場や売り方などが大きく変化しており、効率的な事業運営を行うために、販売会社を中心に 300 億円を費用として計上している。今回の構造改革は、効率化に加えて、販売力の強化も目指しており、改善効果の定量的な算出は難しい。生産部門については、これまでも生産変動に合わせた適正化を随時行っているため、構造改革の対象とはしていない。

キヤノン株式会社

2019年第3四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q5. 配当の考え方について教えてほしい。

A5. 長期的に株式を保有してもらうためにも、安定的かつ積極的な株主還元を方針としており、単年度の業績だけで判断するのだけでなく、中期的なキャッシュフローの見通しを総合的に勘案した上で配当額を決定している。

Q6. 来期のカメラ市場をどのように見ているか。

A6. 足元のトレンドを見る限り、来期も今年と同水準の減少が続くと見ている。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。